

第1回図書館員の優良企業見学会「宇佐ランタン」

開催日時:平成26年9月3日(水)

13:00~17:00

開催場所:株式会社宇佐ランタン

宇佐市民図書館

主催:ビジネス支援図書館推進協議会

共催:宇佐市民図書館

目的:図書館員がビジネス支援に取り組む能力を身につけるための研修を開催しました。

参加人数:9名

大分県立図書館2名

宇佐市民図書館5名

BL協議会2名(齊藤先生、竹内先生)

宇佐ランタンは、お祭りや居酒屋で見る提灯をつくる会社で、ビニール製提灯製造で日本トップクラスのシェアを誇る会社です。

平成24年度に経済産業省のダイバーシティ経営100選、平成25年度は第4回日本でいちばん大切にしたい会社大賞審査員特別賞を受賞しています。



特徴としては、14名の社員すべてが正社員であり、うち8名が障がい者であること。そのうち4名が重度の知的障がい者であるそうです。

かつて提灯の製造は内職の定番として一人がすべて責任を持つものでしたが、各工程を見直して分業制にし、担当社員が無理なく

作ることができるよう、自動ひご巻き機械(写真)や、女子社員が重い金属が入った提灯を持ち運ぶストレスを軽減できる作業台を作るなど、工具を工夫しています。



しかし、誰でもできるということではなく、熟練による職人技が必要です。障がい者は習熟に時間はかかりますが、繰り返し訓練を積むことで、熟練すると職人技を身につけることができるそうです。



彼女は「優秀勤労障害者」として、平成20年に厚生労働省表彰を受けています。手早く作業する姿を見ている限り、知的障がい者だとは全くわかりません。暗い雰囲気はなく、生き生きと笑顔で働いている様子に感動しました。

通勤はワゴン車で送迎。出勤率は98%と高く、早い納期にも貢献してくれているそうです。最低賃金の除外申請はしておらず、

第1回図書館員の優良企業見学会「宇佐ランタン」

手取りで10万円以上と自立が可能であり、結婚した社員もいます。

金属の提灯の型も、乾燥後簡単に外すことができるように工夫されています。



中国ではできない提灯の開発が急務です。提灯は外で使うため、ビニール製が主体です。しかし、環境問題に配慮する企業はビニールを嫌う傾向があります。そこで、雨に濡れても破れにくく、にじまない提灯用の紙を開発、4月に特許を取得しました。



見学後、宇佐市民図書館に移動してワークショップを開催しました。企業見学を振り返り、見学のポイント、解説、図書館が応援できるこ

とを検討しました。

ワークショップには、宇佐ランタンの谷川社長も参加してくださいました。



ワークショップ後の懇親会には、宇佐市の商工労政係長が参加してくれました。

また、宇佐市民図書館と大分県産業創造機構が連絡をとって、ビジネス支援の方法を探っていくことになりました。